

ジャンボタニシによる水稲被害対策

令和7年5月

大分県東部振興局 生産流通部 集落営農・水田畑地化班

👉 ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の生態

- 成貝は殻高2~7cm程度
- 在来のタニシ（タニシ科）との見分けは難しいが、濃いピンク色の卵塊があれば生息している
- 他のタニシ類に比較して、螺旋の上部の長さが短く、殻径と殻高の長さがほぼ同じ



用水路(水口)の卵塊



スクミリンゴガイ

マルタニシ

ヒメタニシ

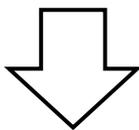
ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）

（千葉県 Web サイトより）（千葉県 Web サイトより）

↑ マルタニシ・ヒメタニシは水稲に影響はありません

👉 被害内容

- 稲3~4 葉期**までが食害されやすく、食害された場合は**欠株**となる
- 深水**となった部分では**被害が拡大**しやすい
- 本貝には人体に有毒な寄生虫（広東住血線虫）がいることがあるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用し素手では扱わないもし素手で触った場合には、石鹸で手をよく洗う



稲5葉期になると被害が少なくなるため、**田植え後3週間程度**までにどれくらい被害を抑えられるかが重要！！



被害を受けた水田

👉 対策

- ジャンボタニシは水中でしか植物を食べることができないため、より深水の部分では被害が拡大するため、**田面を均平**に維持する
- 水深が浅いと活動が制限されるため、水深を4cm（理想1cm）以下に維持し、**浅水管理**する

石灰窒素散布

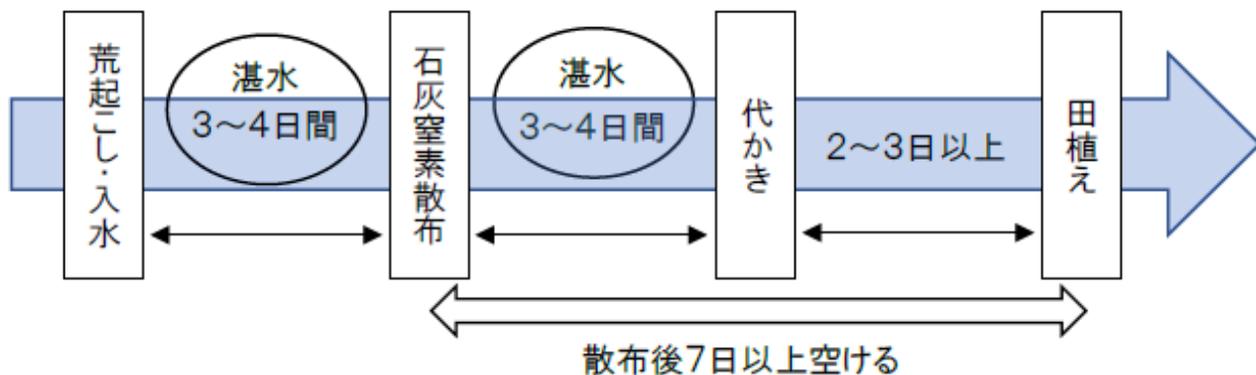
資材	10a当り散布量
石灰窒素	20~30kg

- 注1) 石灰窒素20~30kg/10aは窒素4~6kg/10aに相当するため、水稻の施肥量に注意する
- 注2) 魚毒性が高いため、漏水防止対策を行うとともに、田面水は水路に流さず、自然落水させる

使用方法

- ① 荒起し後3~4cm湛水
- ② 3~4日後に全面散布
- ③ 3~4日間湛水状態を保つ
- ④ 代かき後、2~3日以上おいて田植えを行う

※稲に対する薬害を避けるため、散布から田植えまで7日以上空ける



薬剤散布（農薬例）

薬剤	使用量
スクミノン	1~4kg/10a

使用時期

- 1回目：田植え後~田植え2週間後
- 2回目：1回目散布から1週間後
- ※2回目は必要に応じて散布

【効果的な散布方法】

浅水管理中、深くなっている箇所^①に所定の**範囲内で多め**に散布すると効果的

ジャンボタニシは深水箇所^②に集まるため、その箇所で**まとめて退治**できるチャンス！

！注意！ ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の防除を目的として「椿油かす」を使用することは農薬取締法違反！